

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 進路も含めた卒業生を追跡調査する手法を策定し、実施する。	→追跡調査の実施(2013年度までに)	D	D	C	B	B
						☆
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 卒業生の動向については、従来から進路情報に基づいて学部長室委員会と本学キャリアセンターとの意見交換会を行っている。在学生に関してであるが、2011年度より在学生調査(同志社大学を中心とした大学IRコンソーシアムが実施)に参加し、学習成果の評価指標としてその動向についても継続的に注目している。卒業生の中で、特に伝道者(牧師、聖書科教師)になった卒業生に関しては継続教育の機会(神学セミナー、キリスト教教育研究集会、神学講座)等を通してコンタクトを取っている。また、神学部同窓会、神学部後援会と連携し、卒業生の伝道者の動向を把握する組織(人事委員会)を毎月開催している。また、専任教員が率先して各地で開かれる神学部同窓会に出席して情報を収集している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記で言及する、伝道者である卒業生の動向は把握でき、学部同窓会および卒業生と相互に協力しつつ、ケアや継続教育を実践している。しかし、伝道者を進路とする以外の卒業生への取り組みは不十分である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部同窓会・後援会また本学キャリアセンターと協力して情報の把握を適切に進めていくとともに、神学部においても独自に、コース制開設により多彩になった後の入学者(2004年度以降)・卒業生(2007年度以降)の追跡調査の方法を検討し、実施の仕組みを構築する。	☆
		その他	☆
備考			☆